

フィールド レポーターだより!!



オオキンケイギク(特定外来種)

2018年度 第1回調査

「オオキンケイギクを調べよう」 調査報告

昨年のオオキンケイギク調査の結果がまとまりました。

オオキンケイギクは、春から夏にかけて道端に黄色い花を咲かせます。この植物は在来種ではなく、特定外来生物に指定されています。特定外来生物とは、外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものです¹⁾。県内の外来種やその対策については、滋賀県のホームページに説明があります²⁾。また、多くの市町では、オオキンケイギクの対応について、注意喚起をしています。滋賀県内では、この植物が広がりつつあります。しかし、この植物がどこに生えているのかについて、近年地図上に示されたものはありません。この調査は、県内に広がりつつあると思われる植物の実態をつかめたという点で、とても有意義なものでした。

ところで、調査に参加している方は、この植物についてどれだけ知っているのでしょうか。この調査では、分布を調査するだけでなく、オオキンケイギクについて調査者の持つ知識や、この植物に対して感じていることについても調査しています。外来生物というと、皆が良い印象を持たないと思うかもしれませんが、結果は意外なものでした。詳細は調査結果をご覧ください。

実際にどのような場所・環境に生育しているかについて結果を見てみると、山地以外の場所では広範囲に生育していることが分かりました。本調査によって、オオキンケイギクの分布を確認することのできる地図ができました。この地図を利用して、今後のオオキンケイギク対策を進めてもらうことを願います。

オオキンケイギクは植物なので、発芽してからは基本的には動けません。現在この植物が滋賀県で繁茂しているということは、私たちの行動が分布拡大に寄与していたということも意味しています。外来生物は在来種に危害を与え、生態系を乱す悪者であるといわれますが、もとはと言えば、我々が運び込んだものです。このことを常に頭の片隅におきつつ、この調査報告を読む読者の皆さんが、生き物とのつきあい方について考えるきっかけになればと願っています。

(担当学芸員 大槻 達郎)

参考ホームページ

1) 日本の外来種対委 <https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/outline.html>

2) 滋賀県の外来生物 www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/gairaiseibutu.html#aboutalien

2018年度第1回 フィールドレポーター調査
「オオキンケイギクを調べよう」調査報告

フィールドレポータースタッフ 梶島昭紘

今回は、初夏に道沿いや河川などに見られる、草丈 1m 前後で黄色い花を多数咲かせるオオキンケイギクを調査して頂きました。オオキンケイギクは生態系に対する影響が大きい外来種であることから、平成 18 年 2 月 1 日から「特定外来生物」に指定されました。すでに滋賀県下でも調査されていますが、レポーターの皆さんにもこの調査を通して、特定外来生物のオオキンケイギクの問題を考えて頂くことにしました。

花が咲き始める5月初め頃から黄色の花が目立ってきて確認できますが、7月末頃には結実して目立たなくなるので、調査適期を見逃すのではないかと心配しました。ひとりで広い区域を調査して、沢山の調査票を送って頂きました方をはじめ、調査に参加して下さった皆様本当にありがとうございました。この調査から、オオキンケイギクが予想どおり滋賀県全体に広がっている様子が明らかになりました。また、花の咲いている姿への印象が様々であることも分かりました。調査結果を報告します。

I. 調査の目的と調査方法

オオキンケイギクは滋賀県各地で調べられて、結果が草津市のホームページなどで公開されています。今回、フィールドレポーターによる一斉調査で、県全体でどれくらい広がっているか、どのような環境に分布しているか、草刈の頻度との関係、どのような草と混生しているかの情報を公開することを目的としました。また、オオキンケイギクに対するレポーターの印象や感想を質問して、一緒に特定外来生物のオオキンケイギクの問題を考えることも目的にしました。調査方法は、まずフィールドレポータースタッフが作成した、調査案内、オオキンケイギクの見分け方資料、調査票-1、調査票-2をレポーターに郵送し、琵琶湖博物館のホームページにも公開しました。これらの資料は報告書の巻末に添付しました。レポーターは各自が屋外で花や葉を観察して調査票に記入して博物館に返送しました。可能な方には写真を添付して送付して頂きました。調査期間は4月末から7月末としました。

調査項目は調査票-1と調査票-2に分けました。調査票-1(オオキンケイギクを見つけた場所の調査)は「1. 調査日、2. 地点の位置情報、3. 地点の環境、4. 地点の草刈頻度、4. 群落の大きさ、5. 開花・結実状態、6. 混生する草本」を設けました。調査票-2(オオキンケイギクについて知っていること、感じたことの調査)は「1. 調査以前のオオキンケイギクの認知有無、2. 調査前に認知していた方へ、A) 認知した方法、B) 初めて見た時期、C) 初めて見た場所、D) 初めて見た時からの増減、E) 特定外来生物の指定を知っていたか。全員の方には、3. オオキンケイギクのイメージについて、A) 好きか嫌いか、B) 好き嫌いの理由、4. オオキンケイギクやその他についての自由記述欄です。調査票に添付されていた写真を確認した結果は、全て皆さんの報告通りオオキンケイギクといたしました。また、写真に写っているオオキンケイギク以外の草についても、分かる範囲で結果に加えしました。

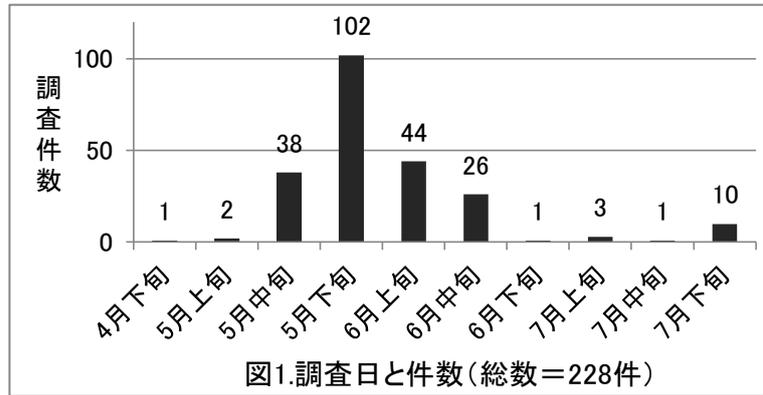
Ⅱ. 調査結果とまとめ

22名のレポーターから調査票-1は228件、調査票-2は22件寄せられました。

Ⅱ-1. オオキンケイギクを見つけた場所の調査結果(調査票-1)

1. 調査日

4月30日～7月24日までの間に調査され、調査日ごとの件数は図1の通りです。調査総数は228件で、その内約半数は5月下旬に調査されました。



2. オオキンケイギクを見つけた地点の分布

報告件数228件の県内分布は図2の通りです。湖東地域の報告が他に比べて少ないですが、県内ほぼ全域で見つかると言えそうです。見つけた地点は平地が多く、山地での報告はありませんでした。

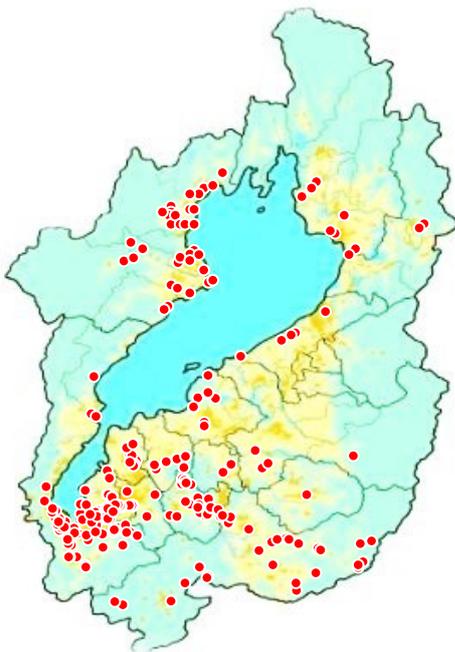


図2.見つけた地点の分布

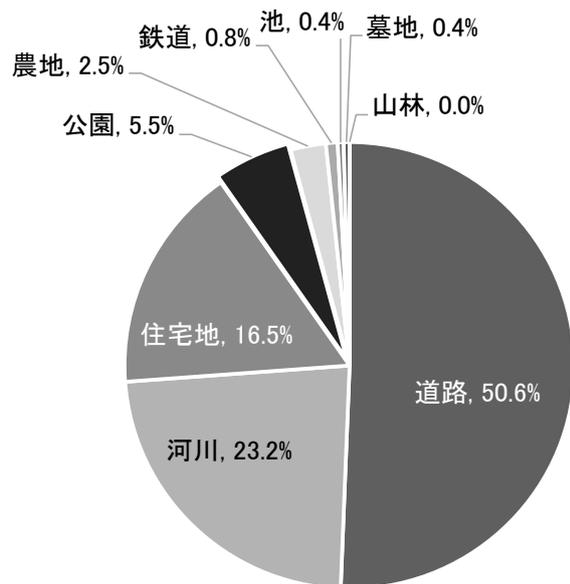
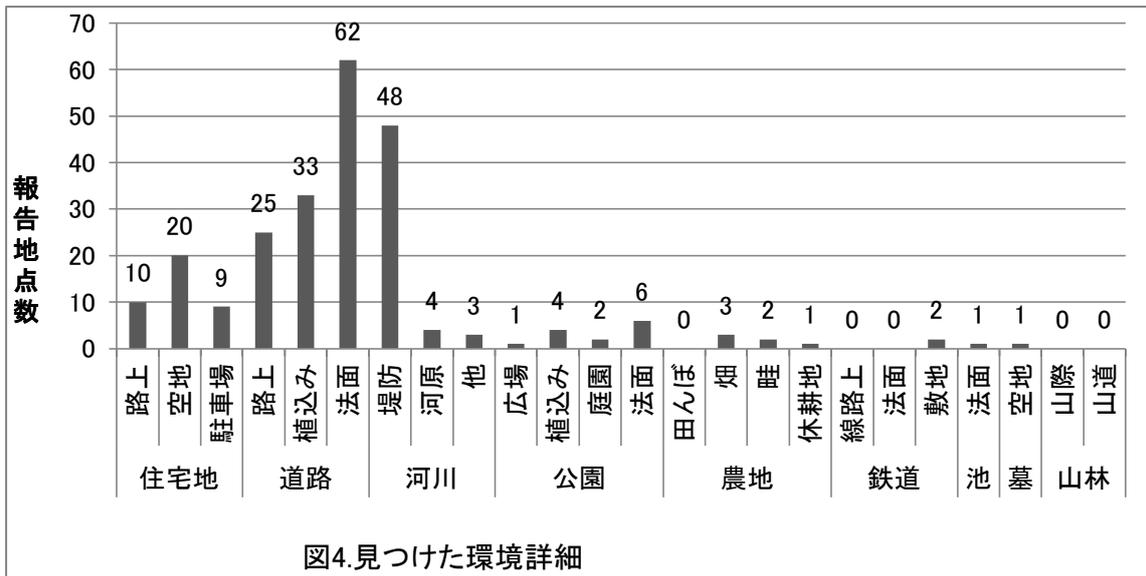


図3. 見つけた地点の環境

3. オオキンケイギクを見つけた地点の環境

見つけた地点の環境の割合は図3、その詳細は図4の通りです。最も多く見つかるのは道路環境で、法面が多く、植込みや路上でも多く見つかりました。次に河川環境が多く、ほとんどが堤防です。その次は住宅地環境で空地・駐車場、路上で見つかりました。公園で見つかるのは法面や植込み、庭園でした。農地や鉄道は少なく、山林の報告はありませんでした。



4. 見つけた地点の群落

群落の大きさの割合は図5の通りで、帯状が約5割でした。数株や1m四方の少ない群落は合わせて約4割ありました。広い場所一面は約1割でした。最も多かった帯状の長さの内訳を図6に示します。長さ10m以下が39件で50mの長さまでで約8割ですが、3000mや4000mが各1件あって、そこは道路環境でした。広い場所一面の内訳は図7の通りで50m²以下の広さが約7割でしたが、大きい面積の場所は15,000m²(500m×30m)や5,000m²(100m×50m)という所もあって広い面に広がっていくことが分かりました。

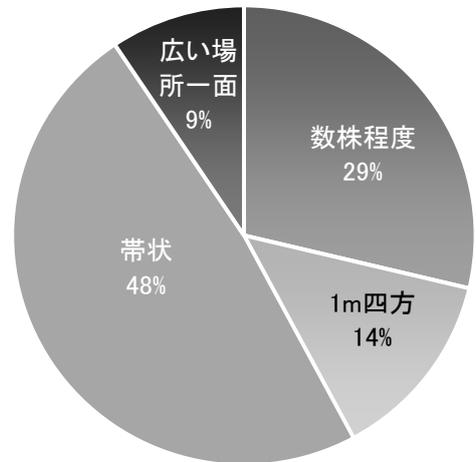


図5. 見つけた群落の大きさ

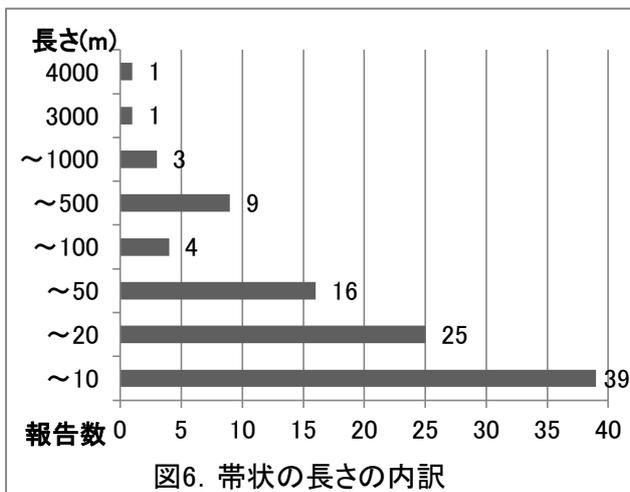


図6. 帯状の長さの内訳

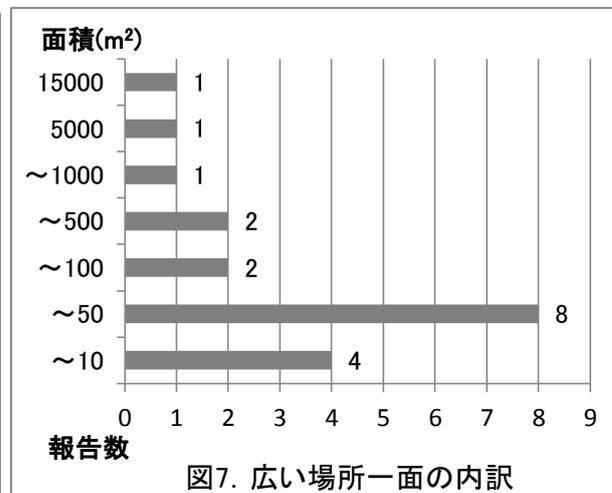


図7. 広い場所一面の内訳

見つけた地点の群落の例を写真で示します。写真1は公園で見みつけた広い場所一面、



写真 1. 広い場所一面

写真 2 は他の草が多く混生している広い場所一面、写真 3 は道路法面の帯状の例です。



写真 2. 広い場所一面、他の草と混生



写真 3. 帯状

(写真 1,2,3 撮影; 椛島)

5. 見つけた群落の県内分布図

見つけた群落の種類別の県内分布図は、図 8 から図 11 の通りです。図 8 は数株の分布図で図 9 は 1m 四方の分布図です。

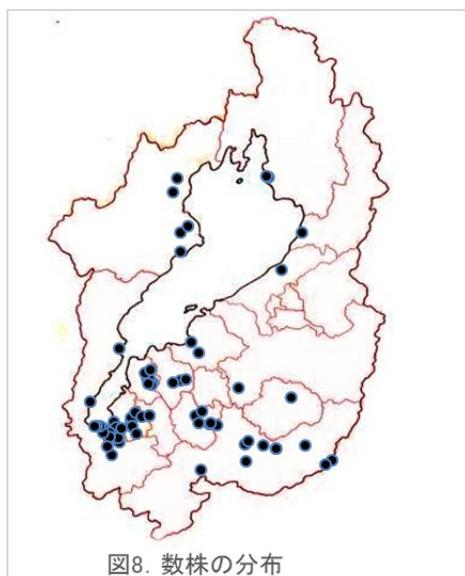


図8. 数株の分布

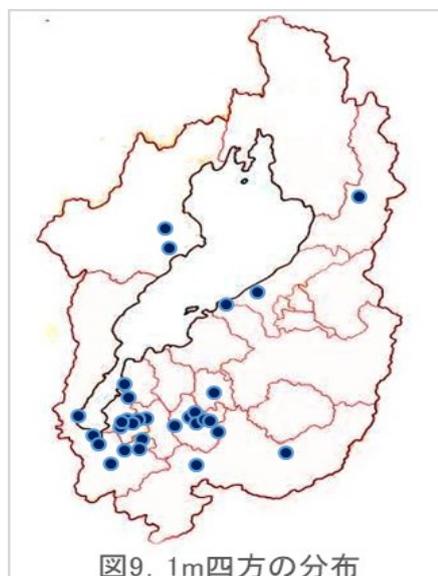


図9. 1m四方の分布

図 10 は帯状の分布図、図 11 は広い場所一面の分布図です。4つの群落の分布は県内ほぼ同じ傾向でした。

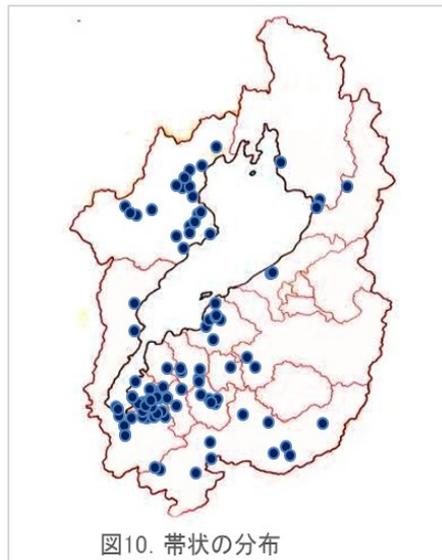


図10. 带状の分布

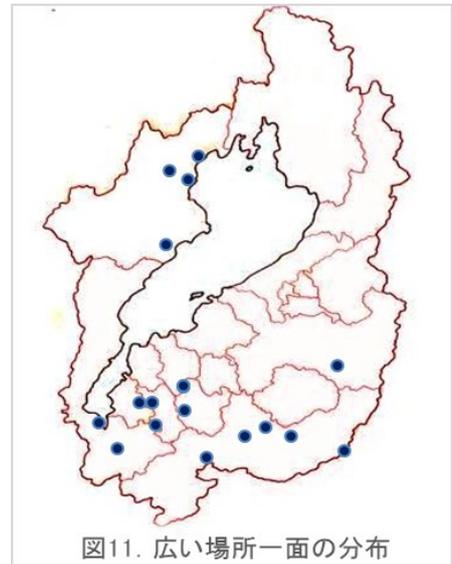


図11. 広い場所一面の分布

6. 見つけた群落と環境

図12に見つけた群落と環境を示します。

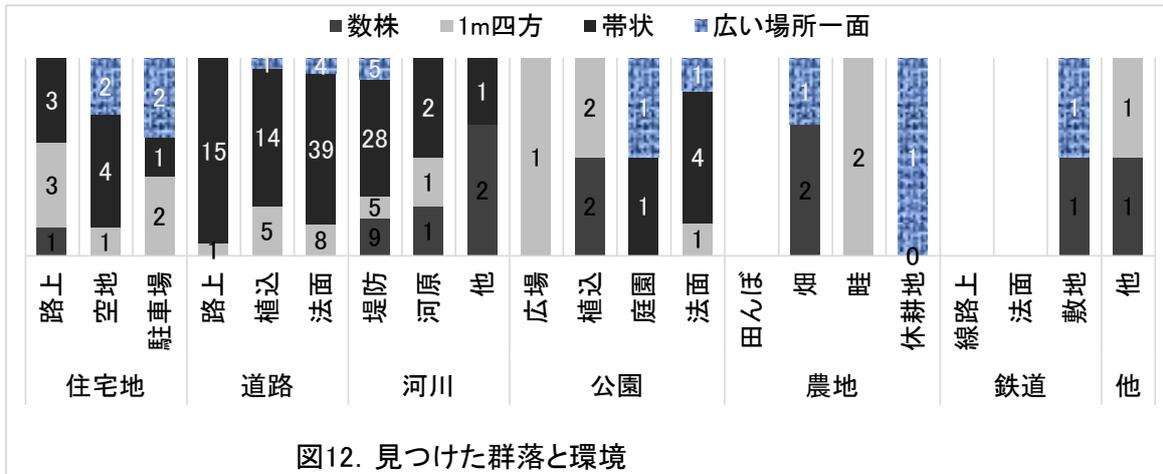


図12. 見つけた群落と環境

带状群落が見つかる比率が高いのは、道路環境、河川の堤防でした。広い場所一面の群落は、公園の庭園や各環境の空地でも見つかりました。数株や1m四方の小さい群落はどの環境でも見つかりました。

7. 見つけた地点の草刈りの頻度

オオキンケイギクを見つけた地点と草刈り頻度を見ると、図13の通りで約7割は恐らく草刈りされている、年1回、年数回草刈されている所でした。

図14は見つけた地点の環境と草刈りの頻度です。比較的頻度が高い所は住宅地、道路の法面と植込み、公園でした。比較的少ない地点は道路の路上と河川の堤防でした。

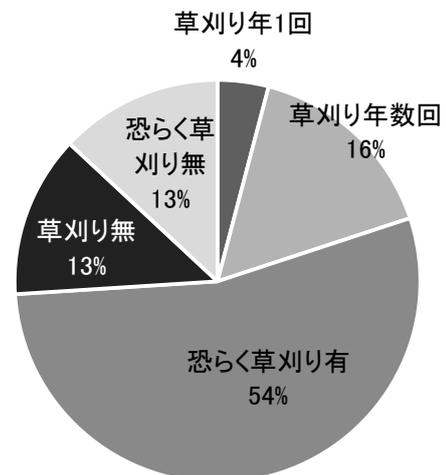
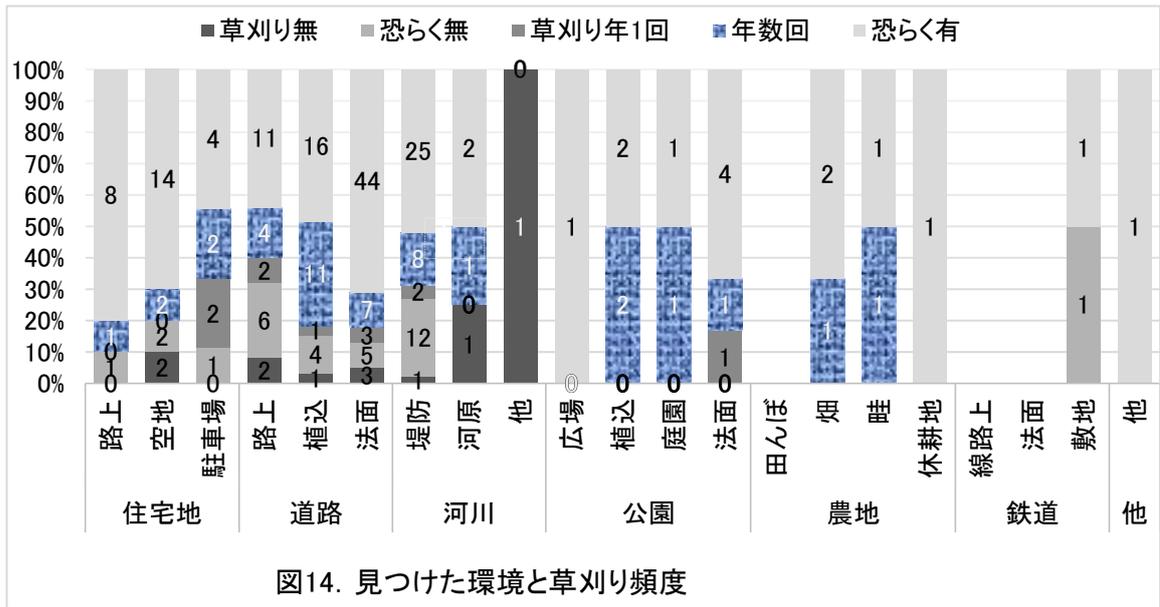


図13. 見つけた地点の草刈りの有無



8. 見つけた草丈

草丈は図 15 の通りで、50cm 以下が 20%、50cm～1m が 74%で最も多く、1.5m の高い草丈は 6%と少なかったです。

草丈と見つけた環境の関係を図 16 に示します。報告が多かった道路環境は、路上植込み、法面はほぼ同じ程度の草丈割合でした。また、河川の堤防は 1.0m の比率が他の環境より高く、1.5m は空地が比較的多かったです。

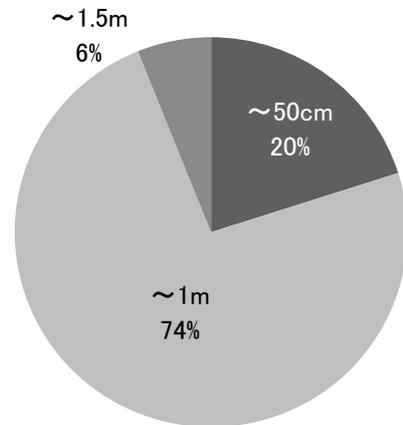


図15. 草丈

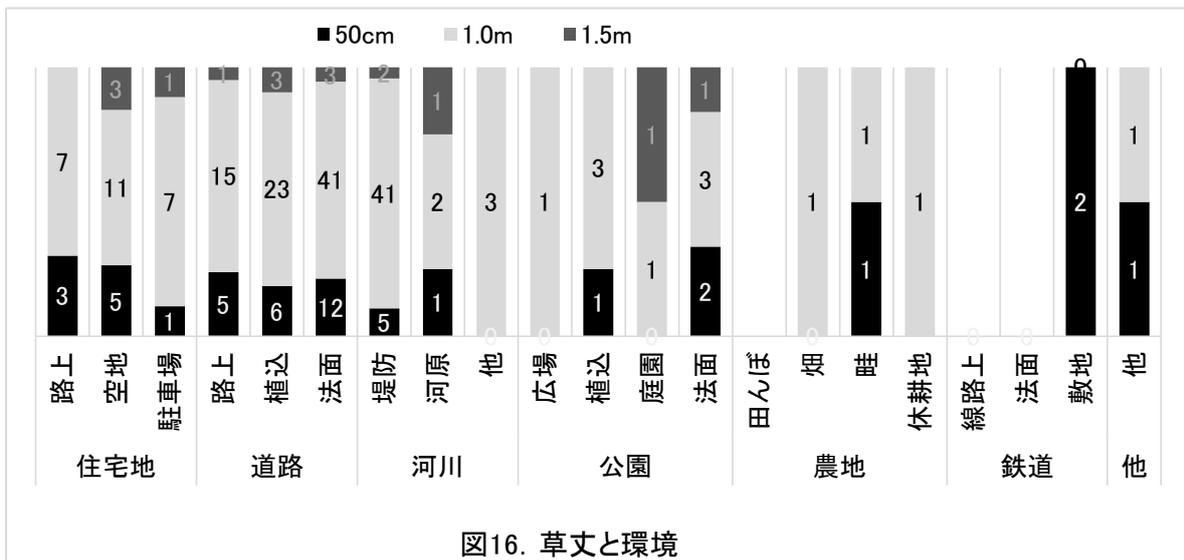
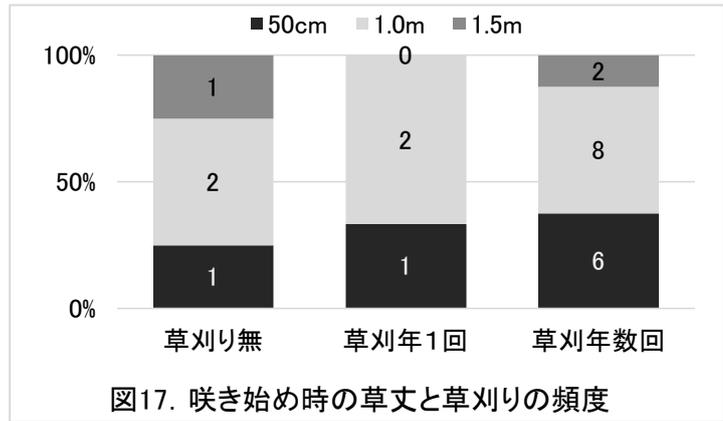


図16. 草丈と環境

草丈と草刈の関係を咲き始めのデータ基準にして図 17 に示します。草刈の頻度の恐らく草刈り有・無のデータを除き、草刈無、草刈年 1 回、草刈年数回のデータで見ると、草丈の低い 50cm 以下の割合は草刈無が 25%、草刈年 1 回が 33%、草刈年数回が 38%でした。



9. 調査期間の花のつぼみから種になるまでの調査日

図 18 の通りで、花が目立つ時期の咲き始めから、満開、満開過ぎに 97%が調査されました。

県の北部と南部で花の咲き始めと満開の調査日と比較しました。県北部は高島市、長浜市、米原市のデータを合算しました。県南部は大津市、草津市、栗東市のデータを合算しました。図 19 は咲き始めの比較で、図 20 は満開時を比較した結果を示します。咲き始めは県南部が 5 月 11 日から 15 日が最も多く、県北部は 5 月 20 日から 31 日が最も多く県北部が 10 日位遅れました。満開時は県南部が 5 月 21 日から 25 日に最も多く、県北部は 6 月 1 日から 6 月 5 日に多く、県北部が 10 日位遅れました。県の南と北で 10 日位の差がありました。

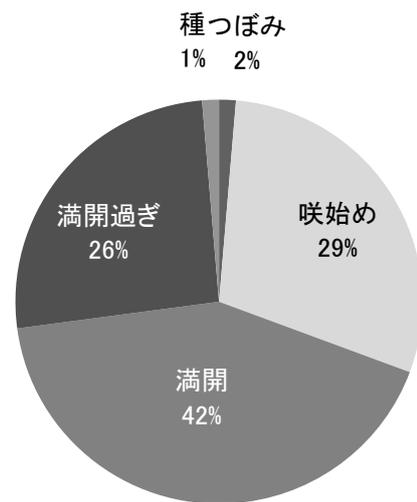


図18. 花の状況と調査日

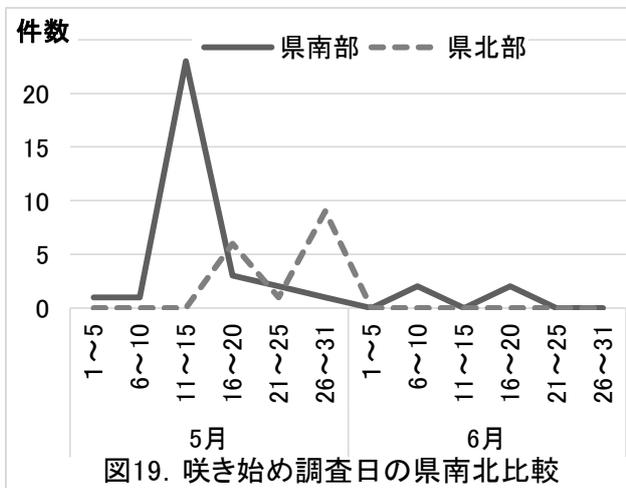


図19. 咲き始め調査日の県南北比較

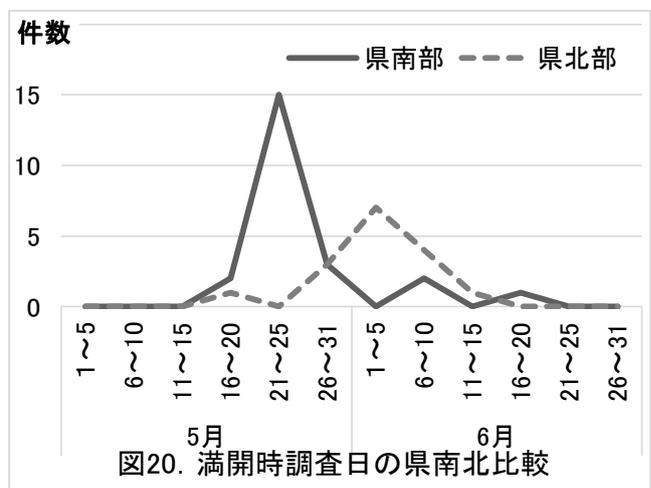
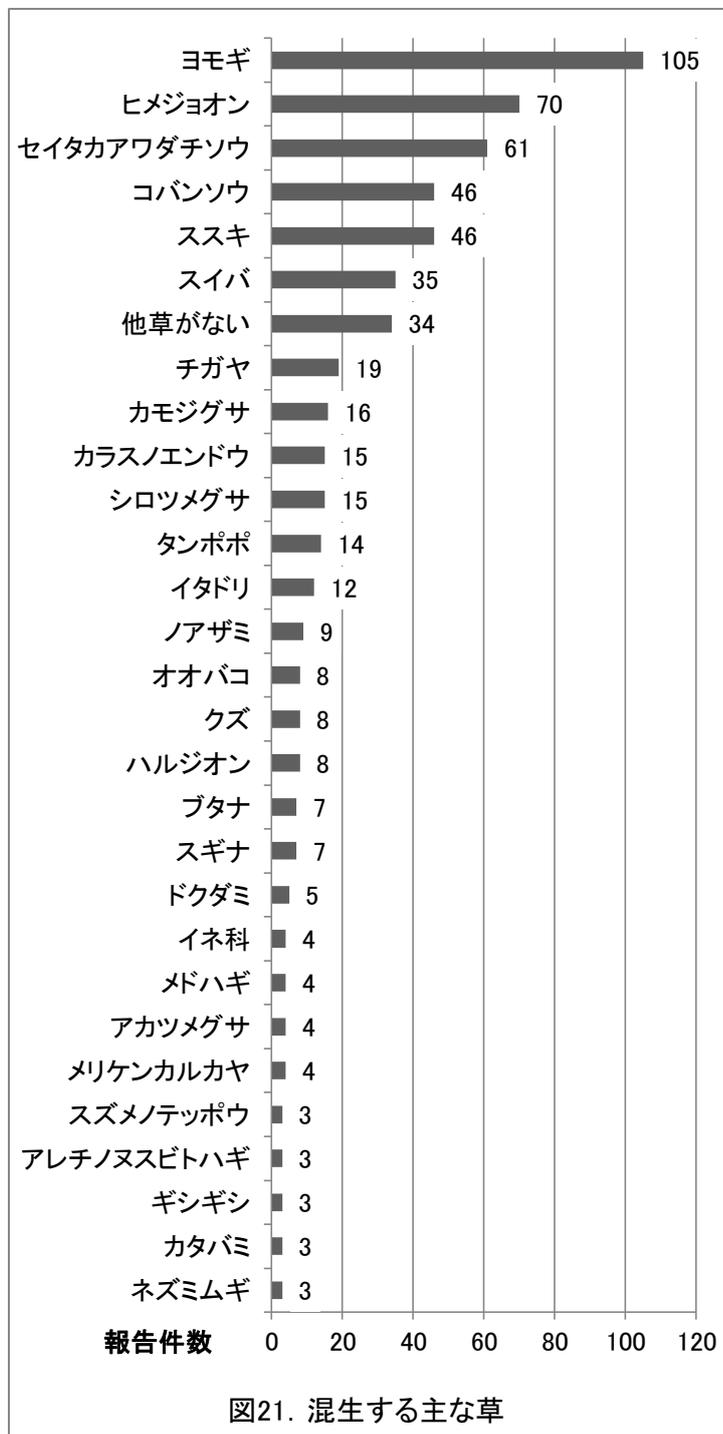


図20. 満開時調査日の県南北比較

10. オオキンケイギクと混生する草

オオキンケイギクと混生する草を調査しました。図 21 通りで、他の草が見当たらないという所は 34 件ありました。多い順にヨモギ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、コバンソウ、ススキ、スイバ、チガヤが混生する草の代表種です。これらは初夏の野ではびこる草ばかりで、オオキンケイギクに対抗して生育できる種類と思われます。少数報告された草は表 1 に示します。



チチコグサ	ホトケノザ
ニワゼキショウ	ヘラオオバコ
カモガヤ	スズメノエンドウ
メマツヨイグサ	オオイヌノフグリ
ヌルデ	ナワシロイチゴ
ヘクソカズラ	チチコグサ
ワラビ	ヤエムグラ
ワルナスビ	カラスノエンドウ
ヘビイチゴ	メマツヨイグサ
オランダミミナグサ	エノコログサ
ムシトリナデシコ	カラムシ
ツルヨシ	ナズナ
ドクダミ	オオバコ

表1. 見つかった少数の草

11. オオキンケイギクを見つけた場所の調査(調査票-1)まとめ

調査は、花が咲き始める 5 月上旬から花が咲き終わる7月下旬の間に行われました。花を見つけた地点の県内分布図から、県内どこでも見つかると言えそうです。それらの地点の環境は多い順に、道路環境、河川環境、住宅地、公園で、これらで 96%が見つかりました。農地や鉄道には少なく、山地からの報告はありませんでした。群落の種類は最も多いのは、帯状の群落で約5割でした。帯状の長さは50m以内が8割ですが、長い所は 3km や 4km というものも見つかりました。これらは道路の路上、植込みや法面、河川の堤防に多かったです。広い場所一面というのは全体の1割でしたが、それらは、住宅地空地、道路の法面、河川堤防、公園の庭園でした。最も広い所は 15,000m² (500m×30m) 報告されました。数株や1m四方の小さい群落は約4割見つかりましたが、これらは後に大きく広がる可能性を示唆しています。それぞれの群落の県内分布状況は、同じ傾向でした。県内では、オオキンケイギクの広がり方は、同じようであると思われます。見つけた地点の草刈の様子を推定して頂くと、約 7 割が草刈りされている所でした。人の関わりで広がっていると言えます。草丈は 1m 前後が 7 割です。草刈りの頻度との関係は咲き始めでみると草刈年数回と頻度が上がると草丈 50cm の低い割合が増えるようです。調査期間の花の開花状況の報告では咲き始めが 29%、満開が 42%、満開過ぎが 26%です。花がつぼみの時と種の時期の調査報告が少なかったです。これは見つけにくかったためと思われる。花の咲いている時の調査日を県の南部と北部を比較すると、県の北部(高島市と長浜市と米原市の合算)と県南部(大津市と草津市と栗東市の合算)では、約 10 日位北部が南部に比べて、花が遅く咲く結果でした。混生する草の調査では、他の草が見当たらない所が 34 件(約 15%) ありました。他の草を凌(しの)ぐ勢いが予想されます。見つかった草の種の多い順にヨモギ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、コバンソウ、ススキ、等で他の草に負けない種が混生していました。これらの草が優勢な環境にオオキンケイギクが混生しているようでした。

II-2. オオキンケイギクについて知っていること、感じたことの調査(調査票-2)

調査票-2は 22 件寄せられました。

1. 調査前にオオキンケイギクを知っていましたか。

図 22 の通りで、花も名前も知っていたと回答した方は 11 名(50%)でした。花を見たことはあるが名前は知らなかった方を合わせると 15 名(68%)で、花については約 7 割の方が見たことがありました。花も名前も知らなかった方が 27%いたので、この調査で認識されたのではないかと思います。

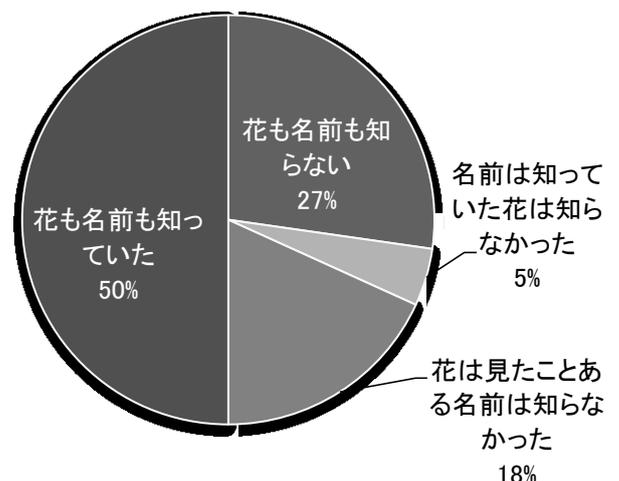


図22. 調査前、オオキンケイギクを知っていましたか

2. 花も名前も知っていた方に聞きました。

該当の方、11名への質問です。

(1) どのようにして知りましたか

図23の通りで、人に聞いて知った方が46%と多かったです。また残りの方は、方法は各種ありますが、自分で調べていました。

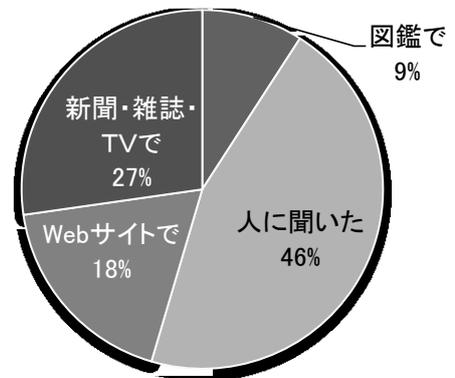


図23. どのようにして知りましたか

(2) 初めて見たのは何年頃でしょうか

表2の通りで、2005年(13年前)が最も早く、2017年まで各1件ずつの報告がありました。

年	2005年	2008年	2009年	2011年	2012年	2013年	2014年	2017年	不明
何年前	13年前	10年前	9年前	7年前	6年前	5年前	4年前	1年前	3件

表2. 初めて見たのは何年頃でしょうか

(3) 初めてみたのはどんな場所でしたか

初めて見た場所は表3の通りで、道路環境が多く、河川環境の順で、調査票-1の3項オオキンケイギクを発見した地点の環境とほぼ同じ結果ですが、住宅地はありませんでした。

環境	件数	内容
道路	5	近江八幡湖周道路、湖岸道路、道路脇、高速道路法面
河川	2	高島市外川沿いの土手、河川敷
公園	2	法面、周辺道路
郊外店	1	道の駅

表3 初めて見た場所

(4) 初めて見た時と比べて今回調査では増えていますか、減っていましたか

図24の通りで、増えているという回答が70%ありました。増加傾向にあるという結果でした。

(5) オオキンケイギクが特定外来生物に

指定されていることを知っていましたか

花も名前も知っていた方全員(11名)

が、特定外来生物の指定であることを知っていたという回答でした。

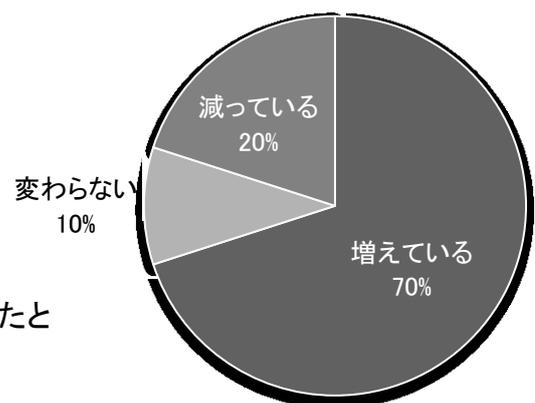


図24. 初見時と今回増減比較

3. オオキンケイギクのイメージについて聞きました

全員、22名の方への質問です。

(1) 花は好きですか、嫌いですか

回答全て22件の結果は図25の通りで、好き・どちらかといえば好きを合わせると46%で、嫌い・どちらかといえば嫌いを合わせた18%に比べると多く、好ましいイメージが多かったです。

(2) 好き、嫌いの訳を記述して頂きました

記述して頂いた内容は表4の通りです。

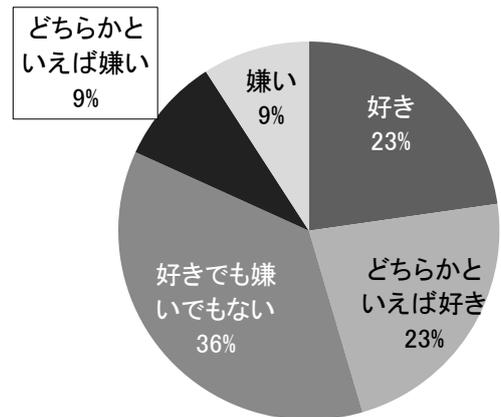


図25. 好き嫌いについて

好き嫌い	その訳は
好き	<ul style="list-style-type: none"> ★丈夫でつよい、花の色が明るい ★きいろでかわいいおはなだからきれいでもある。 ★無言の優しさといやしを与えてくれるから好き ★遠くからでも目立つ黄色い花が美しいから
どちらかという好き	<ul style="list-style-type: none"> ★黄色の花が綺麗 ★華やか ★ハルシャギクとか同様の身近な花を見ているので、特別好きな部類に入らなくても自然に受け入れられる。 ★花びらの色があざやかで目にとまりやすい ★花期が長く園芸種のように鮮やかな黄色の花がとてもきれい
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none"> ★花自体は美しいと思う。特定外来生物への指定でマイナスイメージが付きますが、人間の勝手だと思います。 ★花はきれいだが、根元を見ると野生の印象 ★花の見た目自体はわりといいかなと思いますが、ごつくて群れすぎ、という感じもするし生態系上の存在の状況を知ってしまったからイメージがどうしても良くない部分がある。 ★花はきれいだが特に好きということはない。 ★外来生物と知らなかったのだから、先入観なしで花を見ると特にどちらでもない。
どちらかという嫌い	<ul style="list-style-type: none"> ★切り花に出来ない。株の増え方が多い。 ★オオキンケイギクは人の手によって運ばれたものであり、オオキンケイギク自体に罪があるとは言えない。花が綺麗だといって、海外から様々な植物を持ってきてしまう人間に問題があるのかもしれない。
嫌い	<ul style="list-style-type: none"> ★近年見られるようになったことから外来生物と推定していた。そのうえ、セイタカアワダチソウをも駆逐する勢いの繁殖力と見られると思っていた。 ★咲いている時はきれいだが、花が終わると茎が傾けて歩道の通行を邪魔するから。

表4. 好き、嫌いの訳

好きの訳は主に、花が綺麗(きれい)、美しいがほとんどでした。嫌いの訳は他の植物を圧倒するや花が終わって茎が倒れて通行の邪魔になる事でした。特定外来生物指定と知って嫌いになったという記述もありました。

4. 自由に記述して頂いた内容について

記述して頂いた内容は表 6 に示しました。オオキンケイギクの影響についての記述が多かったため、内容を整理してみました。図 26 はオオキンケイギクの影響です。良い印象が悪い印象に比べて 3 倍位多いです。良い印象の内容を見てみると、図 27 のように花に対して、良い印象が大半を占めていることが分ります。花が綺麗という記述が 56%ですし、華やか、癒される、明るい、可愛い身近の感じるということでした。また、悪い印象の内容は、図 28 の通り繁殖力が強いことや枯れた姿が悪い、になっていました。

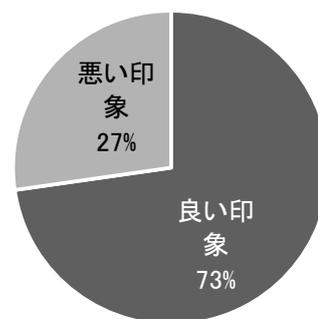


図26. オオキンケイギクの影響

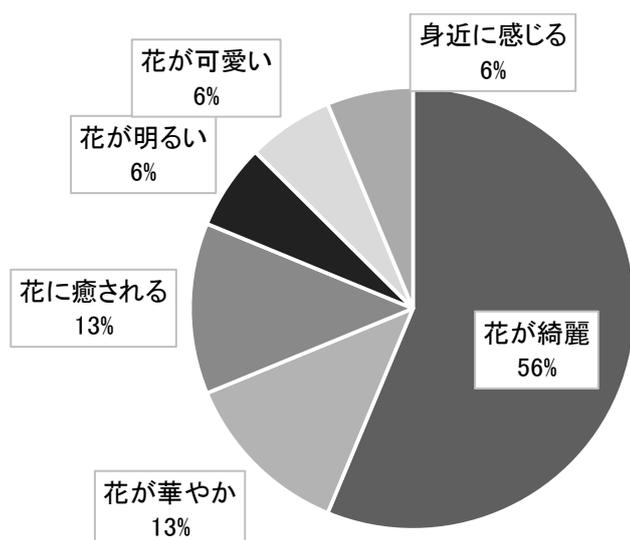


図27. 良い印象内訳

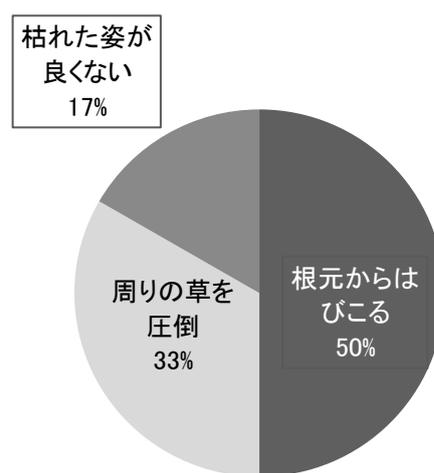


図28. 悪い印象の内訳

表 5 に記述内容の要旨を花への印象と駆除のことに区分して整理しました。

花への印象	駆除のこと
<ul style="list-style-type: none"> ★花壇で育てている、そこから野生化する。 ★初夏に咲く花で群れて咲いても良い。 ★花茎が高く目立つ、しつこい。 ★初夏に咲く花で、群れて咲いても良い。 ★花瓶に生けていたことがある。 ★人が開発した所にある。 ★草刈で広がり、そして早い。 ★他の草より強よそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ★散歩で駆除しているのを見かける、駆除方法のPR不足と思う。 ★花を残して草刈りした場所がある。駆除には心理面の対応が必要と思う。 ★草刈後も背丈を低くして花が咲く。 ★広い面積に広がると駆除は困難と思う。

表 5 記述内容の要旨

☆5年位前から道路上や土手に目につくようになって、他の植物に影響しているのだろうと思っていた。ただ5月頃に黄色の花が奇麗で目の保養にはなっていた。花壇で育てている所も見られる、しかしその近くの道路に広がっています。草刈をしている場所はすぐに葉を広げ、花茎を出して花を咲かせています。草刈後に育つ物は背は低いです。

☆草津市環境課でも平成24年にオオキンケイギク調査を行いました。ホームページでも公開されている調査報告書を同封します。

☆繁殖力が強そう。近くの方に聞くと「毎年刈っても出てくる」と言っていた。近所を回っただけでもかなりの場所に繁殖している印象を持った。

☆花をきれいだなどとは思ったこともない。

☆今回、調べてみて、いくつか気づいたことがあります。①地点1、つまり自宅の近くの鹿深夢の森公園周辺には、かなり多くの本種が生育しており、これが、どこでもよくあることではなく、近郊の市町・地区・字と比べても際だっていると感じたこと(不名誉なことと思います)。②逆に言うと、生育している場所は、まだまだ、県内のそんなにもどこでもあるというわけではなく、今なら手の打ちようがあるレベルだと感じたこと。③自宅の近郊の4町で発見して記録をしたが、「どんな場所にあるのか」と、生育の条件を考えた場合…◆ 他の外来種にもよくあることとして、「人間が開いた場所で、自然の遷移のままの土地よりも乾燥地化が進んだところ」◆ 公有地などで、草刈りの手が回りきらずにある場所(地点3と4がその例か?) ◆ ある程度草刈りが入っていても、あるいは他の植物が多く生育している場所でも生えることができるということ…などが思い浮かびました。④今回調査・記録した4つの地点の他にも10地点以上見かけた場所があったのですが、ナガミヒナゲシとかでも同じで、それはしかたかれかの家の庭や畑、という場合が多かったです。地点2の記録などは典型的ですが、他の草は刈っているのに本種は刈らずに残す人がたいへん多いということがよくわかりました。だから、本種の「駆除」をする場合、物理的にどれだけの労力があるか、に加えて、心理的に多くの人の理解が得られるか、ということにも多くのエネルギーがいりそうで先が思いやられる、というのが正直な感想です。

☆庭に植えている家が所々にある。この場合その周辺の草地にも生えていることが多い。セイタカアワダチソウと同じく人が草刈することにより日当たりが良くなり生き続けているのかもしれない。(オオキンケイギクの調査とは関係ないがコバンソウが至る所に密生し問題が多いように思われる。)

☆調査した地区でも花壇に咲いているものもありました。私も10年以上前ですが庭に植えて楽しんでいました。その後「危険植物？」と驚いたものです。

☆外来生物に関する難しさ。人間も含めてすべての生物は移動しているから。

☆定期的に草刈する場所に広がるように思います。でも、不思議と田んぼの畦や農道には入

り込んでいません。広がるのは河川敷や空き地、街路樹の根元のところが多いのではないのでしょうか。あっという間に茎を伸長して花が目立つようになりますね。

☆毎年初夏の風の中で初めて咲く1輪の美しさに、不謹慎ながら感動することがある、黄色系の色のためか元気にさせられ、群れて咲く様子も決して邪魔にならない。種ばかりになっても悪くない姿と思う。

☆最初この花は知っていると思っていた。活動に入りガーベラ的一种やノゲシと混同していることを知った。背の高さを小さく見ていたのが完全な間違いであった。調査に当たっての背の高さは重要なポイントであり、そう思って良く見れば、かなりしつこい黄色と背丈の主張は、見た目を悪くするだけといったイメージに代わって行った。一見して見た目の派手な花できれいという感もあったが、生育地とその存在状態を観察するうちに、そのしたたかさがだんだん鼻についてきた。

☆「水口スポーツの森」と「みなくち子どもの森」の園内ではオオキンケイギクは見つけられなかった。

☆数年前から「見たらひきぬいてー！」のチラシもあります。散歩しながら駆除してくれている人もあります。「駆除できるものならば「移動禁止」を変にうたわないでほしい。引き抜き後の処理方法(焼却ゴミとして出す、種ができるまで刈ること等。)を明記することで、爆発的繁殖を防ぐことができるのではないのでしょうか？発信源が【博】になってくれるとうれしい。

☆特定外来生物で駆除対象とされているが決して見にくいこともなく、花壇に植える人がいてもおかしくないと感じました。オオキンケイギクの成長をさまたげるような雑草は見られないように感じた。

☆外来生物と知らなかったら家の花瓶に活けていたかも知れません。

☆とにかく、湖岸道路に多い。そして、草刈りされた後も、草丈を小さくしながら開花している。キク科の特徴かもしれないが、環境変動への応答も早く、根絶するのは難しいだろう。このように人の手によって広まってしまった植物は多々存在するが、日本の在来種を駆逐せず共存するようなコントロール法を模索していくしかないのかもしれない。

☆調査している際に、道端にオオキンケイギクだけ残して除草されている所があった。花がきれいなため特定外来生物というより園芸種の花として扱われている場合が多いように思われる。これまでの経験から市内ではたくさん見つけられないと思っていたが、車で搜したら意外と多く見つけたりびっくりしている。

☆5月19日(土)のフィールドレポーター交流会に参加して、オオキンケイギク観察会で実物をよく見てスマホで写真を撮ってから調査を始めました。まず、自転車に乗って自宅周辺から始めたところ、いつも通っている道路の両端に生えているのを見つけました。さらに住宅街や田んぼや畑のあぜ道を走りながら探しました。鮮やかな黄色の目立つ花なので、田んぼや畑の遠い場所から見つけることが出来ると思ったのですが、あぜ道にははえていません

でした。見つかったのは川の付近でした。とにかく、湖南省内をくまなく探そうと思い、野洲川を渡った北部の正福寺や菩提寺、さらに岩根や湖南工業団地の道沿いや用水路、川など自転車で走りまわりましたが、まったく見つかりませんでした。見のがした場所があるかも知れませんが、不思議に見つかりませんでした。野洲市の希望ヶ丘公園前を車で走った時に道路沿いに多くのオオキンケイギクを見つけたので、日を改めて自転車で走りまわったところ、近江学園付近やさくら墓園周辺で夥しい数の花を見つけました。道路の植え込みや法面全面に咲く花を見たときは、圧倒されました。希望ヶ丘公園内にも入って自転車で走れる場所を探してみましたが、見つかりませんでした。結論としては、もっと多くの場所で見つかると思っていましたが、意外にも見つかった場所は限られていました。それと今回の調査に参加するまで、オオキンケイギクが特定外来生物とは知りませんでした。ただ、調査する前も調査してからも、黄色が目立つ美しい花は大好きという気持は変わりません。自宅で栽培している人も同じでしょう。美しい花を駆除するのは、かなり難しいと痛感しました。

表 6. 寄せられた自由記述(順不同)

5. オオキンケイギクについて知っていること、感じたことの調査(調査票-2)まとめ

調査票は 22 件をいただきました。調査前から花も名前も知っていた方が 50%と多かったです。その 11 名に聞くと、初見は 13 年前からで、初見の場所は道路、河川的环境が多く今回調査と似た環境でした。初見時と比べて増えているという回答が 70%でした。特定外来生物の指定については皆さん知っているという回答でした。全回答者(22 名)にイメージについて聞くと、花の好き嫌いでは、好きという傾向が多かったです。好きの理由は花が綺麗(きれい)というのが多くみられました。嫌いの理由は他の植物を圧倒しているが多かった。自由記述された内容を整理すると、良い印象が 7 割ありました。そして花に対して良い印象が多い中で、駆除することの困難さを心配する意見が多く見られました。

Ⅲ. おわりに

2018 年度第 1 回目のフィールドレポーター調査テーマをスタッフで相談し、特定外来生物について勉強しました。滋賀県内のオオキンケイギク情報の Web 公開資料が見つかりました。これらの情報及び、特に草津市の 2014 年度調査結果資料を参考にして、オオキンケイギク調査を取り上げました。フィールドレポーター調査の特徴を生かして、調査票は、植生の調査と感じたこと調査の 2 種類を案内して、特定外来生物のオオキンケイギクについて考えて頂くことにしました。

調査前に特定外来生物の法規制など専門的な知識を中井専門学芸員ご指導いただきました。調査案内、調査票作成には中村学芸員にご助言いただきました。そして調査案内、調査票作成から調査結果のまとめまで全般にわたり、フィールドレポーター担当大槻学芸員にご指導いただきました。皆様に深く感謝申し上げます。

「オオキンケイギクを調べよう」調査案内

初夏に身近な野原や道沿いなどに、草丈 50cm 前後の黄色い菊のような花が咲いているのを見たことはありませんか。それはオオキンケイギクかも知れません(写真)。

2018 年度第1回フィールドレポーター調査は、この花を調べていただきます。

オオキンケイギクは生態系に対する影響が大きい外来種であることから、平成 18 年 2 月 1 日から「特定外来生物」に指定されました。すでに滋賀県下でも調査されていますが、どのような環境に分布しているかについて、多くの人知っているわけではありません。今回の調査では、オオキンケイギクの分布情報を公開して、身近で気がつかないでいる「外来生物」の問題を考えることになればという目的で調査することにします。今回の調査には 次の2種類の調査票を送りました。



【調査票—1】オオキンケイギクを見つけた

場所の調査

オオキンケイギクの生育状態の調査です。

お1人何枚でも送っていただけます。たくさんの情報をお待ちしています。この花を見つけた場所を調査して下さい。たいていは集団で生えているのではないかと思います。どんな状態で生えているか、どんな場所でしょうか、その近くや集団にはどんな植物があるのでしょうか、調べて調査票に記入して送って下さい。写真が撮れる方は添付した同定の説明資料を参考に花と葉が分かるよう撮影して添付して下さい、送っていただいた方には同定した結果を後日返信します。

【調査票—2】オオキンケイギクについて知っていること、感じたことの調査

オオキンケイギクを今まで聞いたり、観察した時のイメージや感想を教えてください。

お1人1枚だけ送って下さい。初めて見た時の印象はどうだったでしょうか。その後印象が変わったでしょうか。あるいは気付かない間に広がっていて、いつの間にか目にふれるようになったとか。花に関して感じたこと、聞いたこと、調べたことなど自由に記入して送ってください。

締切日： 7月31日

琵琶湖博物館のホームページからも調査案内、調査票が入手できます。回答はフィールドレポーターのアドレス freporter@biwahaku.jp 宛に電子メールで送っていただいても結構です。ただ、メールのファイルサイズは3メガバイト以内でお願いします。

オオキンケイギク観察会の案内

5月19日(土)フィールドレポーター交流会を予定しております。昨年度調査結果の報告会の後にオオキンケイギクの観察会を実施します。調査内容、オオキンケイギクの見分け方など説明し、博物館近くの野原・道路を観察に出かけます。先月送付しました交流会案内を見てお越しください。

【調査票—2】 オオキンケイギクについて知っていること、感じたことの調査
この調査票はおひとり1枚ずつ答えて送って下さ。

1、調査者 氏名

2、この調査の前まで、オオキンケイギクについて。(数字に○を付けてください。)

①名前も花も知らなかった。 ②名前は知っていたが花は知らなかった。

③花は見たことあるが名前は知らなかった。 ④名前も花も知っていた。

3、上記④の知っていた方へ質問です。知らなかった方は設問4から回答して下さい。

A) どのようにして知りましたか。(数字に○を付けてください。)

①図鑑で調べて ②Web サイトで調べて ③人に教えてもらった

④新聞、雑誌、テレビで見て ⑤その他()

B) 初めてみたのは何年頃でしょうか？(西暦 年頃)

C) 初めてみたのはどんな場所でしたか？()

D) 初めてみた時と比べて今回調査では増えていましたか、減っていましたか？

(数字に○を付けてください。)

① 増えている ② 変わらない ③ 減っている

E) オオキンケイギクが特定外来生物に指定されていることをご存知でしたか。

(数字に○を付けて下さい)。 ①知っていた ②知らなかった

4、オオキンケイギクのイメージについてお聞きします。

A) 花は好きですか？(数字に○を付けてください。)



B) 好きとか嫌いと思われた訳を教えてください。(自由記述です)

5、オオキンケイギクに関して、感じたこと、聞いたことがあること、知っていること等
何でも自由に書いて下さい。